

「ケサランパサランを作る(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ふわふわと空中を浮遊する、謎の生物“ケサランパサラン”・・・この話に、2年生の子どもたちはとても興味を持ってくれた。「軽くて体積が大きいもの、そして身近な素材で作れる・・・」いろいろ試した結果、スズランテープが一番適していることがわかった。



スズランテープなら、どこの学校にもあるし、メートル単価が安い(約1円50銭)なので、ふんだんに使える。また色もいろいろあるので、造形的にも楽しい。必ず「家でも作りたい」と言い出すので、何本か持ち帰らせることもできる。



このスズランテープ、横の強度は高いが、縦の強度は非常に低く、非常に細く割くことができる。休み時間に、スズランテープの端切れで子どもが遊んでいるのに、ヒントを得たのだ。このテープを40cm程度に切って、中央に「結び目」を作る。その結び目に向か

って、両側から細く割いてゆくわけだ。スズランテープはもともと軽く、割かなくても、しばらくは空中に浮いている。しかし、割くことによって、重さは変わらずに、体積と表面積が増える。ガマの穂が破裂するのと同じである。



「いろんな色を作ったよ」子どもは器用で目もいいので、あっという間に細く割いてしまう。



さて、飛ばしてみましよう・・・と思ったら、「先生、服にくっついた！生きてる、これ！」という。割くことで静電気が発生し、テープとは材質のちがう服の布にくっついたのだ。「生き物」だと思っているのが面白い。さて、うまく室内を飛ぶだろうか？